

第4期奈良県食育推進計画（案）に対する意見募集の結果について

資料2

【募集期間】 令和5年12月14日（木）から令和6年1月12日（金）まで

【意見件数】 5件

【意見の概要及び県の考え方】

番号	頁番号	章番号等	表題	行数・図表番号等	意見の概要	県の考え方
1	25	第4章2(1)①	健康的な食生活の普及推進 ・野菜摂取量	取組	取組例として野菜の摂取量増加に関する実践方法の普及啓発とありますが、具体的な方法として、野菜を1回及び1日あたりどれだけ食べれば良いかについて、手ばかり等のイラストや写真で示すことでイメージしやすくなり、県民の方に啓蒙できるのではないかと思います。	具体的な取組方法や県民の方への周知方法につきましては、いただいたご意見も参考にしながら、効果的な方法について関係機関とともに検討し、取組をすすめてまいります。
2	25	第4章2(1)①	健康的な食生活の普及推進 ・人と比較して食べる速度が速い人の割合	指標	評価指標にされている「人と比較して食べる速度が速い人の割合」について、表現が抽象的なので、比較することが困難ではないかと思うので、アンケートの設問を食事時間はどれぐらいですかに変更すればと考えます。	速食いの人に肥満の人が多く、特に、働き盛り世代に速食いの人が多い傾向にあることから、この年代を対象に取組をすすめたかと考えています。この評価指標は、特定健診等で使用される「標準的な質問票」と同じ設問にすることで全国等との比較検討も可能にしています。目標値は、今年度実施している県民調査の結果も踏まえて、性・年代別に設定し、進捗管理していく予定です。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
3	38	第4章2(7)⑮	多様な主体による食育の推進 ・子ども食堂を設置する小学校区の割合	指標	現在、子ども食堂を運営されている方の多くは資金難であると聞いています。目標値100%を達成するには、子ども食堂ネットワークから協力企業の参入増や県の奈良っ子はぐくみ助成金のことを関係者に広く知らせる必要があると思います。目標値の100%は実現可能なのでしょうか。	県では、子ども食堂コーディネーターを設置し、子ども食堂への助成金の案内のほか新規設置・継続の相談支援、協力企業等の確保、フードバンク活動団体と連携し、子ども食堂への食材等提供のマッチング等の取組を行っています。 県が目指す姿として「自分の校区には、遊びに行けて、地域の人のごはんを作ってくれる居場所として子ども食堂がある」という環境をつくっていくため、全小学校区に設置という高い目標値を掲げています。目標達成のため、地元自治体や社会福祉協議会に対し、助成金の周知とともに子ども食堂設置のノウハウ提供等の働きかけを充実させ、設置数を増やしていきます。
4	34	第4章2(4)⑩	若い世代に対する取組の推進	指標	評価指標について、やせ（20～30歳代女性）と朝食（20～30歳代男女）となっていますが、高校1年生から20歳までについても指標が必要だと思います。p32に小5の肥満傾向児の割合が指標としてありますが、これ以降、20～30歳代まで状況を把握することが出来ないと思います。この時期にやせることの将来への影響や朝食の大切さを学ぶことで、成人以後の生活習慣病などの予防につながると考えます。	ご意見のとおり、高校生も含めた若い世代に対する健康的な食生活の普及推進は重要と考えています。具体的な取組については、関係機関とともに検討し推進してまいります。指標については、取組の成果を評価するものとして、やせの割合と朝食をほとんど食べない人の割合について、20～30歳代を設定しています。
5	35	第4章2(6)⑪	地産地消の推進	指標	協定直売所「地の味 土の香」売上額の評価は必要ないと考えます。物価が高騰している状況で同じ品物を売っているなら売上高は上がる。また、天候不順などにより出荷量が安定しなければ売上額も変わる。このことから、売上額の評価が地産地消の推進とつながるのか明確にならないのではと考えます。	協定直売所の売上額については、第3期計画から同じ指標で評価しており、本計画（案）のp19に記載したとおり、売上額は増加傾向にあります。ご意見のとおり、売上額は様々な要因に左右されるものですが、奈良の食の理解と実践（地産地消）を評価する指標として、継続して進捗管理していきます。